

# 応用マクロ経済学（堀井）演習

## 1 テーマ

マクロ経済に関わる様々な問題と、それに対応する政策

※ゼミ名の「応用」というタイトルは、マクロ経済の理論のみを考えるのではなく、それを現実の様々な問題に適用・応用することを意味しています。

## 2 テキスト

参加者の希望に応じて、マクロ経済学・経済政策に関連する書籍を初回の演習で選びます。過去の演習では経済成長の分析（ジョーンズ「経済成長理論入門」、David Weil “Economic Growth”）、国際経済格差の問題（イースタリー「エコノミスト 南の貧困と闘う」）、貿易自由化がマクロ経済に与える影響（Douglas Irwin “Free Trade Under Fire”）等のテキストを用いました。

## 3 趣旨

通常の経済学の講義では、ある程度確立した経済理論について系統的に学習します。本演習では、マクロ経済学の分析手法を習得しつつ、まだ「答えが得られていない」「意見の一致を見ていない」現実の経済問題（日本・外国のどちらも含みます）について、データによる事実の把握・深い考察とそれに基づくディスカッションを行います。それを通じて、様々な経済問題にどう対処すればよいか自ら考える力を養います。同時に、PCを用いた発表、ディスカッション、フィールド調査などの基本スキルも身につけます。

## 4 募集人員 5～9 名

## 5 参加条件 マクロ経済分析を履修済若しくは同時履修することが望ましい。

## 6 選考方法（4月進級予定者）

簡単な面談を行います。来年度のテーマを決めるためにも、皆さんの興味を聞かせてください。面談日時を連絡しますので、応募カードに e-mail アドレス（PCからメールを受信可能なもの）を記載してください。応募締め切り前に相談したい方はメールで連絡してください。

## 7 運営方針

通常のゼミでは、毎回交代で担当者（2名程度）が指定文献の該当章を報告し、その後報告された内容をふまえて、現実の経済問題について全員によるディスカッションを行います。2011年度前期は自由貿易に賛成する立場、反対する立場の両方の書籍を読み、日本がTPPに参加すべきかどうか、国内の雇用・所得分配・農業や世界経済・途上国への影響など様々な観点からディスカッションを行いました。2009年度は、特に途上国のマクロ経済に注目して、なぜ先進国との所得格差を縮めるための援助がうまくいっていないのか、様々な政策を比較検討してデ

ディスカッションを行いました。

また、通例夏休みには合宿を行い、テーマを決めてフィールドワークを行っています。2011年度は沖縄で少子化が進行していない理由、他県と所得格差がある理由について、現地でのヒアリング調査を行いました。2009年は夕張市を訪れ、財政破綻の原因、その影響、今後の再生可能性について調査を行いました。

## 8 担当教員の主要な研究業績

産業構造の発展による経済成長と景気循環 “Wants and Past Knowledge: Growth Cycles with Emerging Industries,” *Journal of Economic Dynamics and Control*

金融インフラ整備が技術進歩と所得不平等に与える影響 “Financial infrastructure, technological shift, and inequality in economic development,” *Macroeconomic Dynamics*

環境悪化と貧困が生み出す負のスパイラル “Wealth Heterogeneity and Escape from the Poverty-Environment Trap,” *Journal of Public Economic Theory*

知的所有権保護と長期の成長可能性 “Economic Growth with Imperfect Protection of Intellectual Property Rights,” *Journal of Economics*,

2重の貧困の罠: 家庭環境と労働市場 “Dual Poverty Trap: Intra- and Intergenerational Linkages in Frictional Labor Market,” *Journal of Public Economic Theory* など

## 9 指導教員が薦める本

マクロ経済の問題（景気、経済成長、失業、不平等、デフレーション、貿易、為替等）は一般市民の関心も高く、皆さんの元にも経済学の授業・テキストを通じてのみではなく、マスメディア・インターネット・ソーシャルメディア等を通じていろいろな情報が入ってきて来ていることと思います。しかし、客観的と思われるニュースであっても、多くの場合何らかの価値判断を含んでおり、根拠が不明確であること少なくありません。そのなかで「これは？」と疑問に思ったとき、「有名な人がそう言っているから」、「みんなそう言っているから」、「そういう雰囲気だから」となんとなく納得するのではなく、自分自身でより広く深く掘り下げ、自らの考えを持てるようになってほしいと思います。

## 10 「ゼミ見学」の可否

いつでも可。11月にオープンゼミを行い、ゼミ生の紹介とそれぞれによる独自発表を行う予定です。それ以外の日（月曜4～5限）でも自由に見学して下さい。

## 11 10月進級者に対する特記事項 特になし

## 12 その他

まだ歴史の浅いゼミですが、これまで出身国・地域、性別、将来の目標などの点で多様なゼミ生に恵まれており、ゼミからの交換留学生も毎年出ています。今後も、様々な視点からディスカッションを行えるゼミにしたいと思っています。また、課外活動に積極的な方もお待ちしております。